

研究 会 開 催 通 知

(昭和 54 年 10 月 15 日～11 月 30 日)

研 究 会	日	時	会 場	備 考
ソフトウェア工学	10月26日(金)	13:00～17:00	機械振興会館	前号参照
計算言語学	11月16日(金)	14:00～17:00	同 上	下記参照
データベース管理システム	11月16日(金)	14:00～17:00	同 上	同 上
分散処理システム	11月22日(木)	9:30～17:00	京 大	同 上
人工知能と対話技法	11月27日(火)	14:00～17:00	機械振興会館	同 上
計算機アーキテクチャ	11月28日(水)	14:00～17:00	同 上	同 上
コンピュータビジョン	11月28日(水)	13:30～17:00	筑 波 大	同 上

◆ 第 20 回 計算言語学研究会

(主査: 和田 弘, 代表幹事: 西村 恕彦, 田中 穂積, 野崎 昭弘)

日 時 昭和 54 年 11 月 16 日 (金) 午後 2 時～5 時
会 場 機械振興会館 地下 3 階 9 号室
〔東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町, 都営 1 号線大門, 都営 6 号線御成門下車, 国電: 浜松町下車, バス: 新橋—渋谷線東京タワー, 等々力—東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車, Tel. 03 (434) 8211〕

- 議 題**
- (1) ヨーロッパの機械翻訳の現状 長尾 真 (京大・工)
〔概要〕 前回の計算言語学研究会での B. Vanquois 教授の講演でも明らかなように, ヨーロッパ共同体では, 機械翻訳プロジェクトが進行している. 9 月初旬から中旬にかけて, ヨーロッパに行く機会を得たので, その現状を報告する.
- (2) 第 1 回認知科学会議に出席して 溝口文雄 (東理大・理工)
〔概要〕 今年の夏 (8 月 13 日～16 日) に, サンディエゴで開催された認知科学会議について報告する. 認知科学は言語理解の問題が一つの柱になっており, 計算言語学との関連は, 今後ますます強まるものと思われる.
- (3) 仮名漢字自動変換方式による日本語ワード・プロセッサ 天野真家, 河田 勉, 武田公人, 森 健一 (東芝・総研)
〔概要〕 研究室レベルの理想的な文章でなく, 実際に論文, 新聞などに現われる文章に対して仮名漢字変換をどのように行っているか, また, どのような機能がエディタに要求され, それがどう実現されているかについて報告する.

◆ 第 16 回 データベース管理システム研究会

(主査: 穂鷹良介, 代表幹事: 植村俊亮)

- 日時 昭和 54 年 11 月 16 日 (金) 午後 2 時～5 時
会場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)
- 議題 (1) 多値従属推論を成立せしめる属性集合条件について
竹島 卓, 国藤 進, 小林 要 (富士通・国際情報研)
〔概要〕 多値従属の推論を成立せしめる属性集合間の条件式を, 従来の公理系とは独立に分解証明法のみを用いて求めた.
- (2) 数値統計データベース序論 佐藤英人 (筑波大・社会工学)
〔概要〕 統計実施者のサブ・スキーマから統計利用者のサブスキーマへデータを変換する際の諸問題について考察する.
- (3) Model 204 データベース管理システム 森田勝弘 (三井情報開発)
〔概要〕 関係データベースの実現システムに近い機能を持つ商用システム Model 204 の外部仕様および内部構造について, その基本的特徴を紹介する.

◆ 第 3 回 分散処理システム研究会

(主査: 元岡 達, 代表幹事: 田中英彦, 苗村憲司)

- 日時 昭和 54 年 11 月 22 日 (木) 午前 9 時半～午後 5 時
会場 京都大学 工学部 情報工学教室 第一講義室
〔京都市左京区吉田本町, 京都駅より市バス㊦百万遍下車徒歩 5 分,
Tel. 075 (751) 2111〕

- 議題 (1) $N-1$ ネットワークにおける TIP/REP の構成と実験結果について
安永尚志, 浅野正一郎 (東大), 山本純二, 高橋洋一 (日立)
〔概要〕 東京大学・TIP (ターミナル・インタフェース・プロセッサ) に TIP 基本機能に加えて RJE 機能を付加して REP (リモート・エントリ・プロセッサ) を構成した. ここでは REP の構成, 実験結果, および TIP の性能測定結果について報告する.
- (2) $N-1$ ネットワークにおけるパケット交換網の利用技術の検討
雨宮次雄, 高橋洋一 (日立), 安永尚志, 浅野正一郎 (東大)
〔概要〕 東京大学・TIP における X25 サポート・プログラムの構成法と, 異なるパケット・ターミナルとの間の接続テストの進め方について, 電電公社所内試験パケット交換網 (TL2) の場合を例に報告する. また TL2 利用の効率測定結果についても報告する.
- (3) 分散制御パケット交換システムにおけるサブシステム結合バスプロトコル
坂井良三, 浦野義頼 (KDD), 石井敏雄 (富士通)
〔概要〕 国際パケット交換システム VENVIS DS-1 システムにおけるサブシステム間結合バスプロトコル (MAP) について述べる.
- (4) オートマトンの縦続分解モデルによる HDLC プロトコルの検証の一方式
加藤聰彦, 斉藤忠夫, 猪瀬 博 (東大・工)
〔概要〕 HDLC プロトコルを用いた通信端末の製品検証に際して, プロトコルをオートマトンモデルで表現し, その直列分割によって比較的簡単なテスト

シーケンスが決定できることを示す。

(5) 多者間プロトコル検証アルゴリズムの提案

伊藤正樹 (電電・武蔵野通研)

〔概要〕 コンピュータネットワークとは異なり信号の送受が処理の大部分を占める分散制御ネットワークにおける「多者間プロトコル」の概念を定義し、その正当性を検証するアルゴリズムを提案する。

(6) マルチプロセッサの方式と実時間信号処理への応用

神田 豊 (気象庁), 伊藤秀一, 深町靖夫 (電通大)

〔概要〕 二つのマイクロプロセッサでシステム制御と信号処理を分担するメモリ共有型マルチプロセッサを試作し、ホイッスラ信号の実時間検出に応用した。本システムの特徴、構成、処理方式、ソフトウェア開発ツール、応用などについて述べる。

(7) 分散データベースにおけるディレクトリ管理方式の評価

疋田定幸, 山崎清明, 吉田 勇, 松下 温 (沖電気)

〔概要〕 分散データベースのユーザに invisibility を提供するディレクトリの管理に関するいくつかの代表的な方式を、データベースサイト間で必要な通信の回数について比較評価し、最適な方式を提案する。

(8) 分散データベースにおける障害処理とデータコンシステンシの維持

山崎清明, 川上 英, 松下 温 (沖電気)

〔概要〕 分散データベースの consistency 維持のためのプロトコルを障害処理用と同期処理用に分離することによりプロトコルの複雑化を防ぎ、通信の無駄を少なくすることができる。今回は障害処理用プロトコルを提案する。

◆ 第13回 人工知能と対話技法研究会

(主査: 田中幸吉, 代表幹事: 白井良明, 田村進一)

日時 昭和54年11月27日(火) 午後2時~5時

会場 機械振興会館 地下3階9号室 (所在地は前記参照)

議題 (1) 大規模神経回路網シミュレーション・プログラムの開発

谷中 勝, 倉田 是 (千葉大・工)

〔概要〕 実時間 ニューロンモデルに基づき、最適な優先順位付待行列を採用して、忠実性と高速化を実現した。

(2) 知能自動車の制御手法

広瀬武志 (機械技研)

〔概要〕 無人で走行する知能自動車のマイクロプロセッサを用いた制御アルゴリズムと実車の走行実験結果を紹介する。

◆ 第28回 計算機アーキテクチャ研究会

(主査: 石井 治, 代表幹事: 有澤 博, 内田俊一)

日時 昭和54年11月28日(水) 午後2時~5時

会場 機械振興会館 6階62号室 (所在地は前記参照)

議題 (1) 高レベルデータ・フローコンピュータシステム—GMMCS—

曾和将容, 早川 清 (群馬大・工)

〔概要〕 データ駆動型並列処理を実現するための基本 OS 構成について報告する。

(2) データフロー計算機の周辺をめぐる

横井俊夫, 島田俊夫, 内田俊一, 塚本享治, 山口喜教
元吉文男, 三国一郎, 樋口哲野 (電総研)

〔概要〕 データフロー計算機に関連する最近のプログラミング言語や計算モデルの話題について, 相互に関連づけて解説する。

◆ 第3回 コンピュータビジョン研究会

(主査: 福村晃夫, 代表幹事: 高木幹雄, 鳥脇純一郎, 田村秀行)

日時 昭和54年11月28日(水) 午後1時半~5時

会場 筑波大学・学術情報処理センター 4階会議室

〔茨城県新治郡桜村天王台 1-1-1, 国鉄常磐線: 土浦駅より, 関東鉄道バス: 石下行「筑波大西」下車約150m または大学中央行「大学会館」下車すぐ, 問い合わせ先: 学術情報処理センター Tel. (0298) 53-2450 or 2452, 便利な列車は急行「ときわ7号」(上野発 11:03, 土浦着 11:56) または, 普通列車(上野発 11:33, 土浦着 12:38), バスは 12:30, 12:50, 13:05 に土浦駅発(約30分乗車)〕

議題 (1) SPIDER——ポータブルな画像処理サブルーチン・パッケージ

田村秀行, 坂根茂幸, 富田文明, 横矢直和 (電総研)
坂上勝彦, 金子正秀 (東大・生研)

(2) SPIDER 開発を通して観たデジタル画像処理アルゴリズムの現状

〔I〕——2次元直交変換と周波数領域での処理——

金子正秀, 尾上守夫 (東大・生研)

(3) SPIDER 開発を通して観たデジタル画像処理アルゴリズムの現状

〔II〕——弛緩法の応用——

坂上勝彦, 高木幹雄 (東大・生研)

〔概要〕 (1)~(3)まとめて

画像処理ソフトウェアの蓄積と流通を目的とした移植性の高いサブルーチン・パッケージ SPIDER を製作した。この SPIDER の設計方針や今後の配布, 運営体制について述べる。また, この開発経験をもとに, デジタル画像処理分野の主要な話題をいくつか概観した, 今回はこのうちの上記二つのテーマについて解する。

(4) キー操作による画像の変形・合成の一手法

西原清一, 池田克夫 (筑波大・学術情報処理センター)

〔概要〕 画像や図形の変形・合成を機能化されたキーを用いて対話的に行う方法について述べる。

(5) 筑波大学・学術情報処理センターにおける画像処理システム

池田克夫, 西原清一, 磯浜健一, 中山和彦 (筑波大・学術情報処理センター)

〔概要〕 筑波大学・学術情報センターに設置した画像および図形の処理システム

の構成と特徴について述べる。

(6) 学術情報処理センターの見学

コンピュータビジョン研究会

次回(第4回)の研究会は、昭和55年1月17日(木) 京都大学にて開催します。発表希望者は11月5日頃までに事務局研究会係までお申込下さい。

計算機アーキテクチャ研究会

来年1月24日(木) 九州大学において、電子通信学会電子計算機研究会と共催で、「並列処理および新しい計算機アーキテクチャに関する広範な話題」をテーマに研究会を開催します。講演希望の方は11月5日までに事務局研究会係までお申込下さい。(尚、締切日以降のお申込の場合には、会告に掲載はできませんが11月末日まで受付ます。)

第 21 回全国大会の開催について

昭和 55 年度全国大会は、創立 20 周年を記念して、5 月 20 日開催の記念式典に引き続き 3 日間、下記により開催されることになり、前回より更に 2 カ月開催が早まりました。

つきましては、次回本欄に一般講演申込み要領をお知らせいたしますので、充分にご留意ください。なお、論文申込みの締切りは 1 月末となる予定です。

記

日 時 昭和 55 年 5 月 21 日 (水)、22 日 (木)、23 日 (金)

会 場 東京都千代田区平河町 日本都市センター、他

「新版情報処理ハンドブック」予約募集案内

前号本欄で予告いたしましたように、詳細な「内容見本」を後付けに添付いたしましたので、ご参照のうえ、本学会々員としての予約特価の特典を利用されるよう、おすすめいたします。概要は次の通りです。

記

●新版情報処理ハンドブック

発 行 昭和 55 年 3 月

定 価 20,000 円 (箱入上製本 B 5 判 1,250 ページ)

●会員予約

●申込締切期限 昭和 55 年 2 月末日

●予約特価 15,500 円 (但し送料別)

●申込方法 学会誌本号後付にとじ込みの郵便振替用紙が申込用紙となります。必要事項をご記入の上お申込みください。任意の用紙はご遠慮ください。

●払込みについて 予約はすべて前金一時払いでお願いします。(分割払いはお引受けできません)

●送 料(書留) 1 部につき 東京都内 23 区 650 円

その他 850 円

但し、北海道・山口・九州・沖縄 1,000 円

●申 込 先 〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館内

社団法人 情報処理学会 電話 (03) 431-2808

なお、会員外の方は、最寄りの書店にお申込みください。

(予約特価 18,000 円 (但し送料別) 申込締切期限 昭和 55 年 2 月末日)

欧文誌の原稿募集について

昨年4月に欧文誌“Journal of Information Processing”を創刊いたしました。同誌に論文発表を希望される会員は、下記を参照のうえ原稿を寄せられるようご案内いたします。

1. 欧文誌発行の目的

わが国の情報処理の研究水準向上のため、情報処理に関する諸研究の国際交流をはかる。

2. 発行計画

(1) 50ページ×4回/年=200ページ, A4判

(2) 純学術研究発表誌とし、PaperとShort Noteを募集する。

(i) Paper (原則として刷上り8ページ以内)——「情報処理」掲載の論文と同じ査読規準に基づき、欧文誌編集委員会で採録を認められた欧文論文。

(ii) Short Note (2ページ以内に限る)——「情報処理」掲載のショート・ノートに準じて、採録を認められた欧文による小論文。

3. 「情報処理」との関連

PaperとShort Noteの和文アブストラクトを「情報処理」に掲載する。

4. 論文原稿の書き方

(1) 用紙はA4判(21cm×30cm)の白紙を使い、1行65ストローク、ダブルスペースで上下3cm(強)の余白を残し、パラグラフは初めを5~6字分あける。この様式で原稿をタイプした場合(図表なしで)24枚で、欧文誌刷上り8ページに当る。なお文章中指定のない場合の記号は立体、数式中の記号は斜体(イタリック)となる。

(2) 査読の都合上、タイトル、氏名、所属およびアブストラクトを和英両語で別紙に記述する。なお和文アブストラクトは英文アブストラクトの邦訳とする。

(i) Paperのアブストラクト——200語以内

(ii) Short Noteのアブストラクト——50語以内

(3) 図表(写真を含む)は、完成図(そのまま縮小製版できるもので、縮版した場合の希望のできあがり寸法を指定する。なお、文字は縮版のさいも読める大きさに書く。)を本文と別にし、説明文は別紙にまとめてタイプし、本文の末尾につける。ただし原稿中に図表のそう入場所を指定する。

(4) 寄稿のさいキーワード表を添付する。(用紙は欧文誌係にご請求ください。)

5. 原稿の送付

(1) コピー4部を送付する。

(2) 送付先: 情報処理学会「欧文誌係」

〒105 東京都港区芝公園 3-5-8 機械振興会館 308-3 号

6. 別刷料

下記の通り別刷100部を印刷実費の一部として、ご負担いただきます。

ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
別刷料	5,000	10,000	15,000	20,000	25,000	30,000	35,000	40,000	55,000	70,000

第2回「ソフトウェア工学シンポジウム」案内

情報処理技術の発達に伴い、ソフトウェア産業においてはソフトウェアからソフトウェア製品への質的変換が求められている。そのためには、そのライフサイクルに沿った系統的な生産管理が必要である。本シンポジウムでは、ソフトウェアの生産管理という視点から、いくつかの問題を提起し、その解決法をさぐるものである。

会員各位におかれましては、あらかじめ日程を調整されて多数参加されることを期待いたします。

テーマ：「ソフトウェア製品生産管理」

開催日：昭和54年12月12日(水)、13日(木) 2日間

(参加者の交流を深めるため、13日夕方、レセプションを開催致します)

会場：日本都市センター 別館講堂(千代田区平河町 2-4-1)

(地下鉄：有楽町線・半蔵門線永田町、丸の内線・銀座線赤坂見附下車)

バス：新橋一中野哲学堂線平河町二丁目、都市センター前、新宿-銀座線麴町四丁目下車)

参加費：12,000円(非会員18,000円、学生会員8,000円)

(レセプション参加費1,000円は別途頂きます。)

申込締切：昭和54年11月30日(金)

プログラム：

セッション1 ソフトウェアとソフトウェア製品

- ・ソフトウェアからソフトウェア製品へ(オープニング・リマークス) (東大 国井利泰)
- ・ソフトウェア製品生産における知的分業 (富士通 小林 要)
- ・ソフトウェア製品管理とソフトウェア価格分離 (日電東芝情報システム 水野幸男)

セッション2 ソフトウェアライフサイクル管理

- ・ソフトウェアの生産計画と工程管理 (日立 芝田寛二)
- ・ソフトウェアプロダクトライン管理とその発展 (日本ユニバック 本池 洵)

セッション3 ソフトウェア製品生産コスト分析

- ・ソフトウェア製品生産コスト分析の現状と動向 (情報処理振興事業協会 上條史彦)
- ・ソフトウェア生産性評価と管理 (横須賀通研 花田収悦)

セッション4 ソフトウェア製品の品質保証

- ・ソフトウェア工学における品質管理(QC)と品質保証(QA) (岩手大 菅野文友)
- ・大規模システムにおける品質管理 (横須賀通研 高村真司)

セッション5 ソフトウェア製品生産の human factor

- ・ソフトウェア製品生産の human factor (日電 東 基衛)

セッション6 ソフトウェア技術者の高度化と再教育

- ・パネル討論

司会 高橋 延匡(東京農工大)

パネラ 有山 正孝(電通大)

三浦 大亮(東レ)

米田 英一(日電東芝情報システム)

*都合によりプログラムに変更があることもあります。

昭和 年 月 日

第2回「ソフトウェア工学シンポジウム」参加申込書^(注1)

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。(該当するものを○印でかこむ。)

(1) 参加費

正会員，賛助会員^(注2) 12,000 円

非会員 18,000 円

学生会員 8,000 円

(2) レセプション 1,000 円 (参加 不参加)

(3) 送金方法

a. 現金書留 (同封)

b. 銀行振込 (住友，第一，富士，三菱銀行各虎ノ門支店，三井銀行本店)

(郵便振替は時間がかかりますから，受け付けられません。)

(4) 申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 〒 _____

_____ Tel. _____

(5) その他 (連絡事項をご記入下さい)

- (注) 1. 申込書は1枚1人として下さい。(この用紙をコピーしたものでも可)
2. 本学会賛助会員は1口1人として正会員に準じます。